

第3回秋田市総合計画・地方創生懇話会

日時 令和2年11月16日(月) 13時30分～16時15分

会場 秋田キャッスルホテル

出席者

秋田市総合計画・地方創生懇話会委員(18名中17名出席)

佐藤裕之委員、進藤史明委員、山口邦雄委員(会長・分科会長)、浅野雅彦委員、小西暁委員、小国輝也委員(分科会長)、水野勇氣委員、小杉栄次郎委員、深澤功委員、境田未希委員、赤石昌之委員、黒崎義雄委員、山崎純委員、高杉静子委員(分科会長)、松岡一志委員、水木卓委員、齊藤知世委員
(欠席：臼木智昭委員)

市側

石井副市長、鎌田副市長、企画財政部長、企画財政部次長、産業振興部次長、観光文化スポーツ部次長、環境部次長、子ども未来部次長、福祉保健部次長、企画調整課長、人口減少・移住定住対策課長、企画調整課長補佐

次第

- 1 開会
- 2 全体会① 13時30分～13時55分
 - (1) 県都『あきた』創生プラン(原案)について 【資料1～4】
 - (2) 秋田市人口ビジョン(改訂原案)について 【資料5～6】
- 3 分科会 14時～15時15分
 - ① 産業振興・雇用づくり分科会
 - ② 地域資源活用・魅力向上分科会
 - ③ 子育て・健康長寿分科会
- 4 全体会② 15時30分～16時15分
 - (1) 分科会の内容報告
 - (2) 意見交換
 - (3) その他
- 5 閉会

第3回懇話会会議録

1	開会	(省略)
2	全体会①	
	事務局	(1) 県都『あきた』創生プラン(原案)について (2) 秋田市人口ビジョン(改訂原案)について (1)について、資料1～4の説明 (2)について、資料5～6の説明
	会長	確認や質問はないか。 ないようなので、分科会へ移っていただくようお願いする。
3	分科会	(省略)
4	全体会②	
	会長	(1) 分科会の内容報告 全体会を再開する。 分科会の意見交換の内容について、各分科会長から報告をお願いしたい。 はじめに、私から産業振興・雇用づくり分科会について報告する。 〈戦略1〉「先端技術を活用した地域産業の振興しごとづくり」および〈戦略3〉「未来につなぐ環境立市あきたの推進」について議論した。 出てきた意見を大きく整理すると6点ほどあった。 1点目は、施策の体系の部分で、【資料1】原案の22ページ「1豊かで活力に満ちたまち」について。 政策を「1商工業の振興」、「2農林水産業の振興」、「3交流人口の拡大と関係人口の創出、移住促進」で、とりわけ商工業と農林水産業について、産業の分野ごとの構成で2つに分けているが、今の時代、それぞれが影響し合っているものなので、新しい概念として整理できないだろうか。あるいは統合して別の表現ができないかという意見が出た。 かなり大きな話であり、すぐに事務局から返答いただけることではないが、検討してほしいということでまとめてみた。 2点目は、「交流人口の拡大と関係人口の創出、移住促進」について。 これは、人と人との関係ということで政策として出されていると思うが、たとえばマイクロツーリズムやワーケーションなども結びつけができないかという議論があった。

3点目は、観光振興の点から、広域的な話は秋田県が行うが、県都である秋田市が隣接市町村との結びつきは強いので、秋田市がマグネットのような役割を果たして、観光振興に対して主導的な提案ができないかという議論があった。

4点目は、〈戦略1〉と〈戦略3〉つまり「地域産業の振興と環境という問題」をどのように捉えるかということだ。

環境は産業と対比的に捉えがちであるが、今の時代はそういうことではなく、森林や風力は秋田市の強みであり、当然環境産業として十分取り組んでいくこととなるので、うまいリレーションの仕方、考え方を打ち出すべきではないかという議論があった。

5点目は、特に〈戦略1〉の先端技術の活用について、行政の効率化、住民サービスの円滑化といった住民の方々の観点はとても重要なことだが、企業の立場で情報通信関連や生産性の向上などの視点を強めてほしいという話があった。

6点目は、事業継承と起業について、同じように語られているが、事業継承はどちらかというところと現在のものを守っていくものであり、一方で創業や起業はかなりアグレッシブな前向きな話になるので、書き方の順番や事業継承があって起業・創業があるのではなく、もう少しアグレッシブな部分を強調してはどうかという話があった。

以上の6点が産業振興・雇用づくり分科会での議論だった。

分科会終了後に出た意見ではあるが、地域資源活用・魅力向上分科会と全く同じような見解で、「成長プラン」を「創生プラン」に名前を変えたことは、大変大きな意味を発信していると話があった。

おおもとの成長プランが創生プランに変わるので、それにぶら下がる政策や施策等のネーミングも、少し変えた方がよいのではないかと話があった。

一番の基本が変わっても、ぶら下がる施策が同じ言葉なのは少し残念だ。ある種の新しい概念、価値観を示すような言葉が政策や施策の中で少しでも出てくれば、きちんと全体が整合していくという形になるので、そういったところも考えてほしい。

続いて、地域資源活用・魅力向上分科会について報告をお願いします。

分科会長

総合計画ならびに人口ビジョン原案についていろいろと意見交換をした。成長戦略を創生戦略とする秋田市の舵取りを評価するという意見が多く出た。

具体的などころに関しては、〈戦略2〉「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」について議論をした。

観光・文化・スポーツといった分野で、今年のコロナ禍の影響を強く受けているジャンルであるため、スタート地点が変わったという話が事務局からあったが、5年後の創生戦略を見据えて、基本構想を理解した上で、総合計画の推進計画を個別・具体的にやっていった方がよいのではないかとという話が出た。

来年の春に予定している秋田市文化創造館のオープンにともない、周辺の文化施設もできるため、ソフト事業の取組がこれからますます大切になるだろう。交流人口の拡大やまちのにぎわい創出に向けて、県外の人をどう巻き込むかということが大事なポイントだと考える。

そして、秋田市が進めてきているまちづくりについて、コンパクトシティを進めてきたが、今後は新しいところにゼロからスタートするのではなく、既存の資源を活かしながら進めるべきではないかという意見も出た。たとえばアリーナやスタジアムの構想といったスポーツ振興についても、まちづくりと整合を図りながら進めていくことが大事ではないかという意見が出た。

既存の資源ということであれば、秋田の強み、地域の強みをもっと出すべきだという話が出た。秋田市内の大学も資源の一つである。連携しながら取組を進めるべきである。いい意味での産学連携をもっと強くした方が、秋田市のインセンティブが強くなるのではないかという意見が出た。

「秋田らしさ」とは何なのかとよく言われるが、その「秋田らしさ」とは何なのかについての議論が必要で、市民に根づくものや生活の積み重ねといった部分も大事にして進めていくことが、人口ビジョンの中でも必要ではないか。ほかの地域と同じでは差別化ができないので、そういったことを議論しながら組み込んでいくことが必要だろう。

最後になるが、関係人口から移住へ流れるためには、地元のつなぎ役やネットワークが重要である。関係人口を創出しようと随所に盛り込んでおり、人口がこれから減っていく中では、移住定住を含めた関係人口を増やしていくことが、秋田市のこれからの魅力ある地域づくりにつながっていくという認識があり、地元のつなぎ役やネットワークが重要であると同時に県外の人を巻き込んでいく視点が必要だろうということをお話した。

会長 続いて、子育て・健康長寿分科会について報告をお願いします。

分科会長 〈戦略4〉と〈戦略5〉について活発に意見を出し合った。その意見をまとめたものが6点ほどある。

秋田で産み育てる環境がないわけではない、安心して出産できることのアピールがもっとあってもよいのではないか。妊娠から産後までそれぞれのケアが必要であり、たとえば子育て支援の施設に妊娠中の方々をツアー

のような形で案内してはどうか。

それから、頼れる人や支える人がこんなふうここにいますよということをもっとアピールすることで、移住してくる人や移住を考えている人の大きなポイントになるのではないかという意見があった。

次に、〈戦略5〉のことになるが、高齢社会でたとえばゴミ出しもままならない大変な方々がたくさんいる。見守りは社会福祉協議会でも盛んに行われているが、NPOや市民活動団体との協働について、もっと具体的に秋田市が推進していく姿勢を打ち出す必要があるのではないか。

公共交通についても整えることが必要だが、民間で行えることがあるのであれば、民間企業による移送支援について相談することができる窓口を設けていただきたいという意見があった。

働き方改革について、コロナによってリモートやオンラインでの仕事というのも世間では言われているが、実際は進んでいない。その人に合った働き方ができるように、具体策を含めて秋田市が企業に働きかけることが必要ではないか。

若い人がコロナ禍で秋田市内にとどまり、都会に行くのをためらっている。それをチャンスと捉えて、若い人の声をもっと市政に活かすような施策があってよいのではないか。確かに文化創造館の使い方など色々議論されているが、中央地区にとどまっているので、市内のいろんな地区で若い人が集まって、秋田市をどうしたいのか、秋田市をどう変えたいのか、若者の考えと力を活かすような話し合いの場をもっと持つことが大事なのではないかという意見があった。

次に、医療についてである。オンライン医療を進めるよう言われているが、秋田のように高齢者がたくさんいると、なかなかうまくいかない。オンライン診療を行うとしても、高齢者の所へ看護師が行って支援しなければいけないなど、現実的にはとても難しい。

また、秋田市は医療が充実しているため、他の市町村からマンションなどへの移住が少しずつ増えてきている。経済的な効果もあるが、市政でもっと活かさないだろうか。

そして、秋田市としては、行政や企業のデジタル化を強力に推し進めるということで施策にも書かれているが、市民のデジタルに対する能力をもっと上げていく、支援していくことについても、施策に反映できないだろうかという意見があった。

(2) 意見交換

会長 各分科会の報告を聞いて意見や補足説明はあるか。

委員 産業振興・雇用づくり分科会と、地域資源活用・魅力向上分科会でも議論

になった、交流人口の拡大や観光振興、産業振興についてである。

都市観光というのは、今まで以上にありだなと感じている。団体旅行の場合だと、バスで有名な観光地に行くことが多いが、アフターコロナにおいては、秋田市に仕事や用事で行った次の日に、半日・1日予定が空くので秋田市を起点にしてまわるといった動きが活発になるだろう。秋田市が近隣市町村との連携を主導することが必要だと感じている。

また、地元の人しか知らない面白い場所や見どころがある所は、案外よそから来た人には魅力である。

仁別の旭川ダム公園は紅葉がとてもきれいだといろんな方が言っていたので、初めて行ってきたが結構な人がいた。観光バスが行くような所ではないが、マイカーやレンタカーでは行きやすい所であり、同じような場所が秋田市にもかなりあるはずなので、そういった所を発掘していくと、都市観光の強化にもなる。

秋田市にビジネスでも来てほしいが、観光でも来ていただき、色々なパターンで秋田市に来ていただいて交流人口を増やすことが可能なのではないかと感じたので、産業振興・雇用づくり分科会とも連携して進めていきたいと思った。

会長 確かに今の時代はインターネットによる情報が充実していて、「〇〇市見所10選」とか、主要なところはすぐわかるので、次なる魅力を探し出していくフェーズに変わっていくのかなと感じている。

子育て・健康長寿分科会の主な意見の資料にある「駅前の芝生広場など、場所をどのように使うか」ということについて、都市型観光にもつながる話なので結構重要かと思っているが、このことは、地域資源活用・魅力向上分科会では話が出なかったか。

分科会長 駅前の芝生広場だけではなく、中心市街地のことについては活発に議論した。文化施設も新しく出来るので、ハードを活かすコーディネーターやディレクター的な機能を強化して、街の中心部に人が集まるようにすることが大事だろうと。その一つとして、駅前から千秋公園にかけてのエリアを想定しているので、駅前の芝生公園も有効に活用すべきだと思う。

委員 今、駅前から千秋公園にかけてのエリアはものすごく変わってきていて、駅前だけではなく、CCRCもできたし、にぎわいが盛り上がってきている所をどのようにしていくかについて、ソフトが大事というのがつながっており、ハードとともにどうしていくべきか。

駅前の芝生広場に関して言うと、駅前の一等地の中心の場所を、まず一度機能をなくそうということで、今この街に何が必要かを考えるきっかけに

なる場所にするのは、ある意味ものすごく贅沢なことだが、約30万人が利用する中核都市の玄関口として、これからのまちづくりを考えていければよいと思っている。

地域資源活用・魅力向上の分科会で出た意見で、「まちづくりについてコンパクトシティを進めてきたが、今後は新しいところにゼロからスタートするのではなく既存の資源を活用しながら進めるべき」とあるが、具体的に話すと、新しい施設というのは必要な時には必ず投資して作らなければいけないと思うが、近代以降のまちづくりでは、秋田市は土地がいっぱいあるため、自由に新しいものを作っていきような場所があったと思う。これからは、今ある資源をどのように結び付けていくかという、戦略的なまちづくりのやり方がとても重要になってくる。

空き地を探して造るのではなく、建築するエリアを、市全体でどのようにしていくかというビジョンの中で、造っていかなければいけないだろう。

空き地があるところに新しいまちを作っていきのではなく、今あるまちをどう変えていくのかという視点が必要ではないか。

秋田らしさの話も、生活の積み重ねの中での話になるが、プロスポーツも少しずつにぎわいが出てきており、それも秋田らしさの一つである。

そういったスポーツや文化などの色々な動きを、小さくてもいくつ上げられるかが重要なのではないか。一つに絞る必要はない。

そういった意味で生活全般の色々なところに、まだどうなるかわからないが、夢をかけることができるビジョンというのは、住んでいる人たちの生活のモチベーションを上げる意味でも重要だという議論もあった。

分科会長

芝生広場の件について補足すると、保育園の子供たちが走り回っていたり、高校生が寝そべったりと微笑ましいよい空間だと思って見ている。今後のその場所の使い方を考えていく中で、そこにも若者の意見を反映させてほしい。話し合うところに様々な世代の人が入った方がよいのではないかという意見だった。

委員

まちの機能が目的化されてしまうと、目的がないと行かないまちになってしまう。昔は漫然とした理由でまちに出かけていたが、洋服を買うために行く、買わない時には行かないようになってしまうと、そういうまちになってしまう。まちとしての違う魅力をもう少しハードに埋め込めないだろうか。

会長

特定目的を明確にしてしまうと、単機能で点と点の移動になってしまい、面白さが生まれにくい。

社会実験的に未来永劫若者の意見というわけでもないもので、せっかくゆ

るやかに使える空間があるのであれば、社会実験的にやってみて面白いことが生まれるかやってみるのはよいことだと思う。

委員 地域のにぎわいが強く出ているが、今の秋田市内の状況をみると、芸術文化ゾーンが秋田駅西側、スポーツ施設が秋田駅東側にできている。千秋公園が整備されて、堀にはハスがあって、夜にはライトアップされている。駅前周辺環境が整ってきているように感じている。

しかしながら、駅に降りた時に秋田市中心のにぎわいの場所はどこなのかと思う。仲小路や広小路、中央通り、南通りとあるが、どこにもにぎわうという感じが見受けられない状況を感じている。

駅前の戦略についても今後組み込んでほしい。秋田駅を中心としてにぎわいが広がってほしい。

委員 地元の良さとか秋田らしさということが出ているが、【資料1】53ページの「教育の充実」について、社会教育や学校教育の欄があるが、地元の良さについてなかなか理解を深める機会が多くない。

現場でも取組を行っていると思うが、もう少し産業でも、マイクロツーリズムでも秋田の良さを新たな切り口で発信していく前提で、教育の分野でも地元の良さについて理解を深めるということを落とし込んでほしい。様々なところへ派生させる流れを作してほしい。

会長 今回の分科会で、産業振興・雇用づくりの分科会に変更となっているが、当初は産業振興だけだった。環境との問題を一緒にやった方がよいのではないかと委員からの意見があり、事務局から再編してもらった。

委員 その趣旨について、どう議論していくかということについて発言した。

先程から、地域資源やシビックプライドという言葉が出ているが、そこにつながるようなリソースを活かすことは、産業論にほかならないことであって、そういった意味では〈戦略1〉や、将来都市像1の「豊かで活力に満ちたまち」の中にある産業を育成する観点や、秋田市周辺の再生可能エネルギーも含めて、環境に資する資源をどう活用していくかという観点で言えば、〈戦略1〉と〈戦略3〉につながるだろうという話である。

これまで環境と都市のあり方で、たとえば省エネをしましよとか、ごみを減らしましよとか、消費者側に負荷を与えるような議論しかなかったが、ここに及んで秋田市が資源に恵まれているのであれば、デマンド側とサプライ側をつなげた議論をすれば非常に特異な都市であろうと思う。両方をつなげた議論をして、そこから生まれた新しい都市像を追求するのが非常に面白いのではないかと感じている。まさにそういった議論ができるの

が秋田市の特徴なのではないか。

〈戦略1〉と〈戦略3〉を合わせて議論するのは非常に良いと思う。横断的に考えたらさらによいのではないか。

(3) その他

会長

石井副市長から願います。

石井副市長

話があった2点について簡単にお話しする。

今回、「創生プラン」ということで、今の「成長プラン」から名称を変えることにしたが、基本的には行政改革の「改革プラン」と、県都あきた成長プランの「成長プラン」と、今は改革プランと成長プランの両輪で市政運営をしている。

来年からは「改革プラン」と「創生プラン」で市政運営をしていくことになる。今回のコロナ禍を受けて「創生」に変え、それにぶら下がる施策事業についても今後吟味が必要ではないかと考え、最終案に向けて、庁内でも議論をしていかなければいけないと思う。

もう1点は、コンパクトシティの推進を今後も進めていくわけだが、昨今の情報通信はめざましいものがある。これを最大限活用しながら、たとえばスマート農業の推進による産業振興、あるいは観光振興、スポーツ、環境への取組、あるいは防災など、こういったものを取り込みながら、まちづくりという視点では、市の土地利用に関する基本的な考え方に沿って取組を進めていくという意味を込めて、〈戦略1〉の重点プログラムVに「先端技術を活用した地域の活性化」を盛り込んだ。いわゆる市街地を単に拡大するのではなく、今後の少子化・高齢化の解決のきっかけとなるような取組をしていきたい。

まだまだ連携の議論は不足しているかと思うが、今後最終案の策定に向けて、今後ともよろしく願います。

鎌田副市長

我々の立場で一番大きいのは、創生戦略の下に具体的にどのような戦略をもってくるかということだと思う。

産業振興と環境、観光、健康長寿社会づくりに分類されている公共交通、これらの事業は視点を変えればすべて同一線上にくる事業であると考えている。

一般市民が見た場合に、どういうのが一番わかりやすいかという視点から、現行の計画と対比させたほうがわかりやすいだろうということで、現時点での分類は5つの戦略で、ほぼ現計画を踏襲した感じとなっている。

ただ、様々なご意見をいただいたので、今後再度内容を検討したうえで次

回の懇話会までには示したい。今後さらに気づかれる点等々あると思うが、引き続きよろしくご指導ご支援よろしくお願ひしたい。

5 閉会（省略）